

かぼちゃ技術情報 No.3

平成29年5月17日

組合員各位

大潟村農業協同組合
特産かぼちゃ生産組合

かぼちゃのハウス定植等について

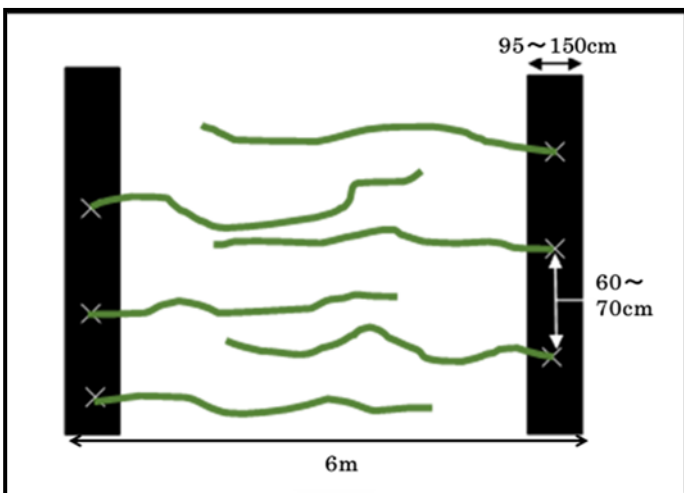
育苗ハウス栽培の場合は気温が高く、初期生育で樹勢が強くなるため、5月下旬の田植え後に定植します。温度が高く花が咲くのも早いため、8月中の収穫・出荷にも十分間に合います。

ハウス内は温度が高く、初期生育で樹勢を高めるのには最適ですが、定植から15日前後で屋根ビニールを剥がさないと、樹勢が強くなりすぎて蔓呆け(注1)の状態になり、着果できないので注意してください。

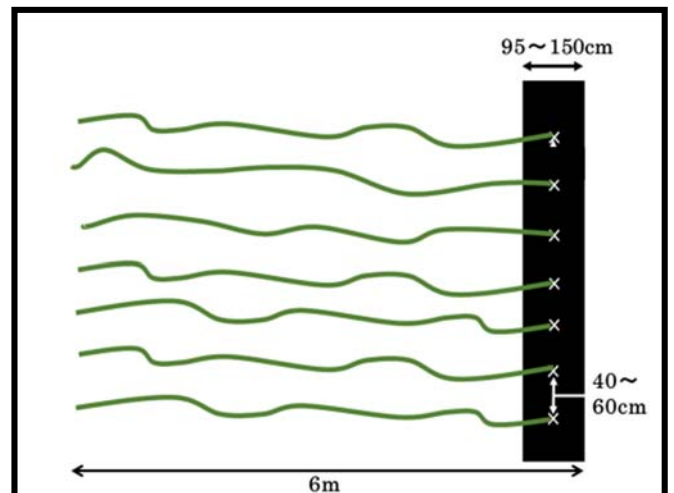
(注1) 蔓呆けとは、初期生育で大きくなりすぎた蔓・葉を維持することに養分が消耗され、根が伸びなかったり、着果しなくなる症状。主に窒素過多が原因。

○定植時の注意点

- ・ 本葉2.5葉前後を目安に定植する。
- ・ 定植は苗が深植えにならないように気を付ける。(本葉がマルチの下に入らない程度)
- ・ ポット内の土(根鉢)を壊すと細根が切れ、しおれやすくなるので、定植前にポットに充分灌水する。(細根が切れると活着が遅れ、生育不良を起こす)
- ・ 定植時に害虫対策としてアドマイヤー1粒剤、又はアドマイヤー顆粒水和剤を使用する。
- ・ アドマイヤー1粒剤は植穴に2g、アドマイヤー顆粒水和剤は希釈倍率10,000倍で葉面散布する(10a当たり100~300ℓ散布する)。アドマイヤー顆粒水和剤を使う場合は、展着剤を使用すること。
- ・ アドマイヤー1粒剤および顆粒水和剤のミツバチへの影響期間は30日間となっている。そのため、養蜂箱設置の際は影響期間を考慮の上、使用すること。
- ・ 5月上旬定植の場合は低温や風、霜により生育に影響が出る場合があるので、その様な状況の時は被覆資材(パオパオ、アイホッカ等)を利用する。



ハウス栽培 両側植え



ハウス栽培 片側植え